



# 財団のご案内

創ろう、私たちの未来を

JSF OUTLINE



公益財団法人 日本科学技術振興財団  
Japan Science Foundation





公益財団法人 日本科学技術振興財団

理事長 東原 敏昭

## ご挨拶

日本科学技術振興財団は、1960年4月に「科学技術振興に関する諸事業を総合的に推進し、わが国の科学技術水準の向上に寄与する」ことを目的として、産官学の総意によって民間の財団として設立されました。これまでの歩みの中で、科学技術の理解促進と社会への啓発に尽力してまいりました。特に当財団の中核事業である科学技術館の運営においては、1964年4月の開館以来、延べ3,000万人以上の方々を訪れ、その数は着実に増え続けています。

当財団は、天然資源に乏しい日本において、知的好奇心を持った科学技術系の人材を育成することは将来の産業の発展に不可欠な要素であると考えており、今後もこれまでの事業と先達の志を受け継ぎ、青少年をはじめとする国民全体の科学技術及び産業技術に対する関心と理解を深めるための環境づくりに取り組んでまいります。

数年前より、環境問題や少子高齢化などの社会課題を解決する取り組みが、行政だけでなく企業や市民にも求められています。私は、社会課題を解決するためには、一人ひとりが社会課題を自分事として考える主体性と、地域や時代ごとに異なる価値観を理解する共感力を持つことが必要であると考えます。また、これらの社会課題は、単独の企業や個人

だけで解決できるものではなく、周囲を巻き込む力も求められます。そして、そのような社会に求められる人材を育てる環境が極めて重要であると考えます。

また、近年は、自ら考える当事者意識を磨くための初等・中等教育として、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術・リベラルアーツ (Arts)、数学 (Mathematics) の5つの領域を対象に体験を通して創造性を育む STEAM 教育が注目されています。当財団の運営する科学技術館は、まさに科学技術の魅力や、「ものづくり」と「ことづくり」の喜びを実際に体験し、体感できる場であり、これからの社会において当財団が果たす役割は、非常に大きいと感じております。私たちは、時代の進む方向を見据え、政府が推進する科学技術振興事業と連携し、産業界からの積極的な支援を仰ぎながら、社会が求める人材の育成に貢献してまいります。

今後も皆様には当財団の活動に対するご理解とご支援を賜り、共に歩んでいくことをお願い申し上げます。私たちは、科学技術の振興と社会への貢献を追求する使命を胸に、一層の飛躍を目指して努力いたします。引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

## Message from the Chairman

The Japan Science Foundation (JSF) was established in April 1960 with the consensus of industry, government and academia as a private foundation, the objective of which is to comprehensively promote projects related to the development of science and technology, thereby contributing to raising the standard of science and technology in Japan. Subsequently, JSF has striven to consistently encourage understanding of science and technology, and educate the general public. In particular, the Science Museum, which is JSF's core activity, has achieved an aggregate visitorship of 30 million people since its opening in April 1964, and this number continues to grow steadily.

JSF believes that nurturing intellectually curious human resources in the field of science and technology in Japan, a country poor in natural resources, is an essential factor in the development and expansion of Japanese industry in the future. Continuing existing activities and aspirations of our predecessors, we will strive to create an environment for deepening the interest and understanding in both scientific technology and industrial technology of not only young people but everyone in Japan.

For several years now, both government agencies and private companies/citizens have been required to undertake measures for resolving social issues such as environmental problems and the declining birthrate/aging of society. I believe that, in order to resolve these social issues, we must have a proactive attitude to view social issues as our own problems, and have the empathy to understand the different values of each region and era. In addition, single company or person can resolve these social issues; they must also have the ability to involve others. I also believe that it is extraordinarily important to have an environment that nurtures the human resources that society requires.

Furthermore, in recent years STEAM education nurturing creativity through experience in the five fields of Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics has been gaining attention as primary and secondary education that nurtures a sense of ownership encouraging young people to think for themselves. The JSF-operated Science Museum is truly a place where visitors can actually experience the appeal of science and technology as well as the joy of "manufacturing" and "creating new values." I feel that JSF has an enormous role to play in the society of the future. Anticipating the direction in which our times are moving, we will collaborate with the science and technology promotion projects implemented by the national government to contribute to the education of the human resources required by society while seeking active support from industry.

Embracing our mission of contributing to society through the promotion of science and technology, we will endeavor to achieve even greater leaps forward, and respectfully ask for your continuing understanding and support of JSF's activities.

Toshiaki Higashihara  
Chairman  
Japan Science Foundation

# 目的・理念

理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年を育成する活動を通じて社会に貢献します

## Objectives and ideals

Increase the number of children who like science, and contribute to society through activities to nurture young people who wish to pursue scientific studies and careers.

# 事業活動

長年培ってきた知識やノウハウを活かし、わが国の科学技術の発展に向けた、様々な事業活動を推進しています。

## Main activities

Putting to good use the knowledge and knowhow that we have built up over nearly sixty years, we promote various activities aimed at the development of Japan's science and technology.

01

### 科学技術館の運営

Science Museum operation

02

### 科学技術系人材の育成

Cultivation of scientific and technical personnel

03

### 科学技術の普及啓発

Fostering of public awareness of science and technology

04

### 全国の教育文化施設プロデュース

Production services for educational and cultural facilities nationwide

05

### 所沢航空発祥記念館の運営管理

Operation and management of the Tokorozawa Aviation Museum

06

### 情報システムの受託開発と運用業務

Commissioned development and operation of information systems

07

### 展示・イベントホール等施設の貸出し

Lending of facilities for event usage, etc.



# 01 科学技術館の運営

科学技術館は、様々な分野の産業技術や基礎科学をテーマにした博物館です。参加体験型の展示やワークショップを通じて、理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年の裾野を広げる活動を推進しています。

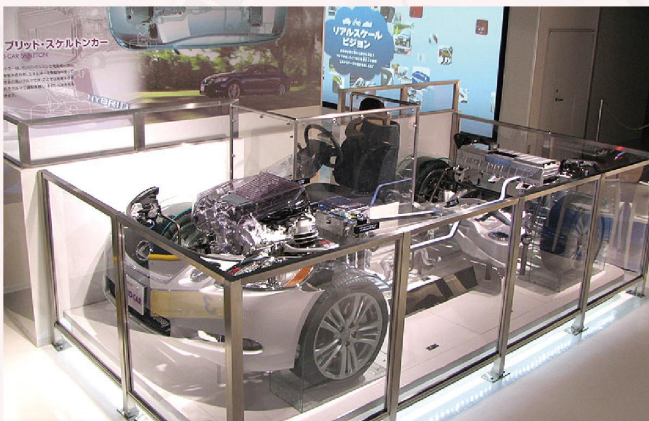
## Science Museum operation

The Science Museum is a museum that takes as its themes industrial technologies and basic science in a variety of fields. Through hands-on exhibitions and workshops, it promotes activities to increase the number of children interested in science and broaden the number of young people who wish to pursue scientific studies and careers.

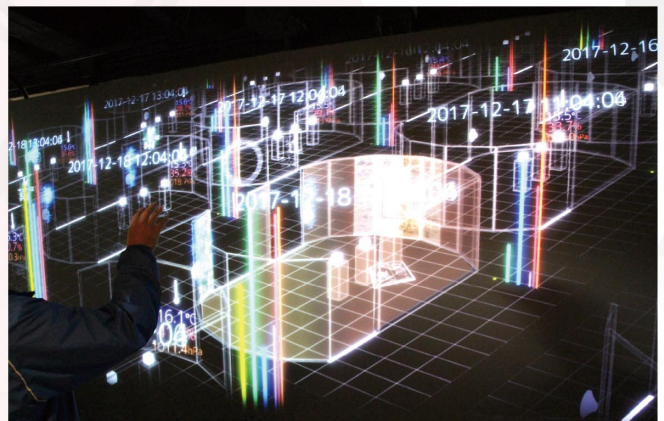


## ■ 常設展示

科学技術館の常設展示は、産業界や研究機関などの出展協力を得て運営しています。参加体験型展示を中心に、子どもたちの好奇心や探究心、創造性を育む、科学やものづくり、産業などの様々なテーマを扱っています。



ワクエコ・モーターランド展示室「ハイブリッド・スケルトンカー」



ニュー・エレクトロホール(サイバー・リンク)展示室「『情報の世界』を旅する」



シンラドーム



DENKI FACTORY 展示室「電気をつくる」



FOREST-遊び・創造・発見の森



## ■ ワークショップ

専門スタッフによる実験ショー、工作教室や立体映像プログラムの上映等を毎日40回以上行っています。



実験ショー「光と色のじっけん室」

## ■ 特別展・イベント

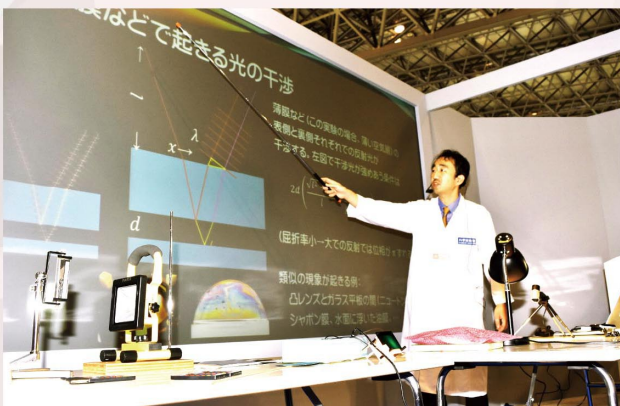
注目度の高い科学ピククスや興味深い科学技術のテーマをとり上げた自主企画の特別展や、関係機関との共催によるイベントを、春休みや夏休みを中心に開催しています。



特別展「気象⇄防災」

## ■ 実験プログラムの開発

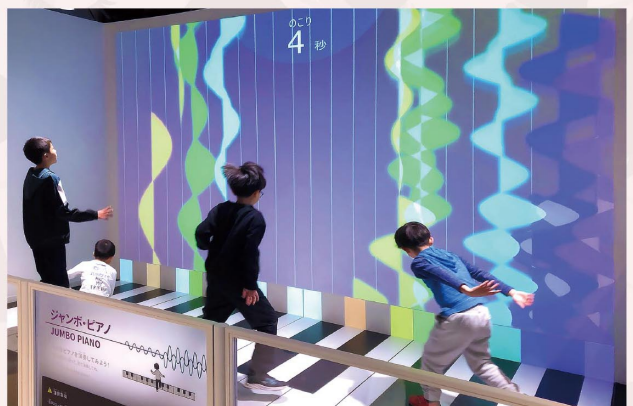
ワークショップやイベントで行われる実験プログラムは科学技術館スタッフが開発しています。自主企画だけでなく、他の外部機関から依頼を受けた実験開発も行っています。



実験プログラム「分光の基本と応用」

## ■ 常設展示の企画・設計・運営

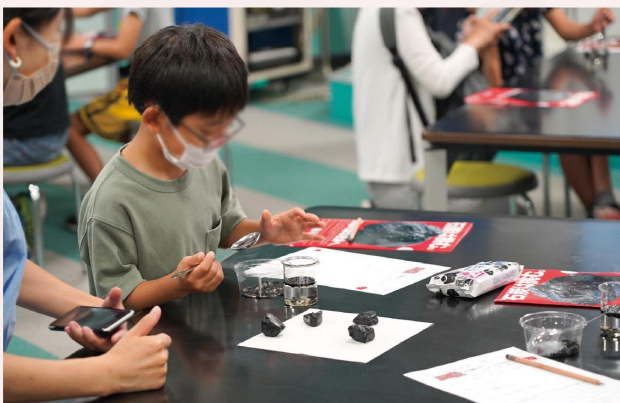
常設展示の多くは、自ら企画・設計し、また協力会社を監理して制作しています。展示の管理・運営・保守などスタッフが直接関わりながら、快適な展示環境を実現しています。



「サウンド」展示室

## ■ 企業・団体との連携事業

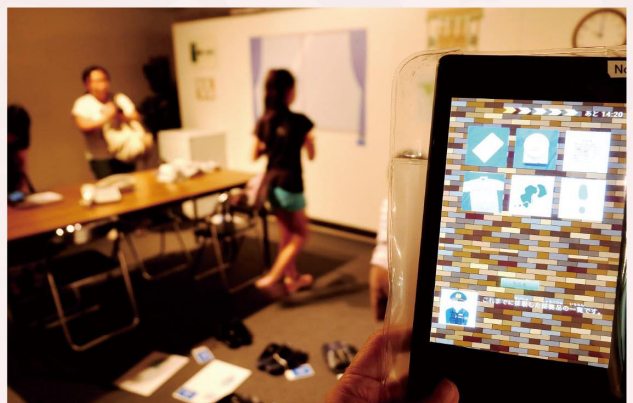
社会貢献活動を展開する企業や団体と連携して、業界のノウハウを活かした話題性のある実験プログラムやイベント等を企画・開催しています。



「石炭実験教室」

## ■ 巡回展示

科学を身近なものとしてとらえ、楽しく遊びながら、発見と驚きや感動を体験できる、様々な巡回展示を貸し出しています。



様々なテーマのパッケージ化された展示物があります。写真は「科学捜査展#SEASON2」



# 科学技術系人材の育成

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味・関心を喚起する活動から、より深い知識を得る活動まで、幅広く科学技術系人材の育成に取り組んでいます。

## Cultivation of scientific and technical personnel

JSF is involved in a diverse range of efforts to cultivate scientific and technology personnel ranging from the holding of hands-on science and technology events and the operation of science Olympiads and activities to spark interest and enthusiasm for science and technology to activities in which profounder scientific knowledge can be obtained.



青少年のための科学の祭典「全国大会」



### ■ 青少年のための科学の祭典

様々な科学実験、工作、観察のブースを設け、体験を通して子どもたちが科学技術の楽しさ、不思議さ、そして感動を実感できるイベントです。全国約70か所で、各地の実行委員会が中心となって大会が開催され、年間約32万人が参加しています。夏休みには恒例の全国大会を科学技術館で開催、全国各地から熱心な指導者が出席しています。理科教員、諸団体、産業界と協力して開催しています。



青少年のための科学の祭典での観察体験

### ■ 国際科学オリンピック関連事業

高校生を主な対象として、生物学分野の才能を見出す機会でもある生物学オリンピック国内大会を全国の大学、高校、教育機関などの協力、産業界・諸団体・国の支援により実施し、日本代表を選抜して国際大会へ派遣しています。



第33回国際生物学オリンピック アルメニア大会

### ■ 教員のための理科実験スキルアップ講座

主に小中学校の教員を対象に授業や社会教育活動でも役立つ理科実験の講習会を、物理・化学・生物・地学の分野ごとに開催しています。講師は「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員の先生方が務めます。



教員のための理科実験スキルアップ講座



# 科学技術の普及啓発

ホームページでの情報発信、全国の小中高等学校や科学館等における教職員研修や出前授業を通じたエネルギー・環境に関する教育支援、優れた科学技術映像を選奨するコンクールなど、科学技術の普及啓発活動を推進しています。

## Fostering of public awareness of science and technology

JSF promotes educational activities to foster public awareness of science and technology by disseminating relevant information on its website, supporting education related to energy and the environment through training programs for teachers and administrative staff and visiting lectures at elementary, junior high and high schools and the science museums nationwide, and organizing the science and technology film festivals to commend excellent science and technology videos.

### ■ 放射線教育支援サイト“らでい”

小・中・高・大学生、教職員等を対象に、エネルギー・環境に関する知識普及を図るため、ホームページの運営、教材の貸出し、実験教室の開催等を実施しています。



放射線教育支援サイト“らでい” (<https://www.radi-edu.jp/>)



エネルギー・環境教材

### ■ 文部科学省委託事業「放射線に関する教職員研修及び出前授業」

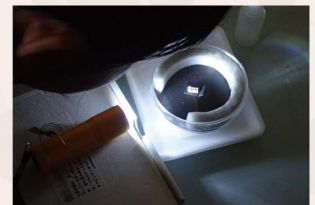
児童生徒等の放射線に関する科学的な知識についての理解の促進を目的に、教職員等を対象とした研修と学校等での出前授業を実施しています。



教職員を対象とした研修



出前授業



霧箱実験

### ■ 科学技術映像祭への長年にわたる貢献

優れた科学技術映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図るための映像コンクールを、1960年より毎年開催してきました。主催は当財団、(公社)映像文化製作者連盟、(公財)つくば科学万博記念財団、(一財)新技術振興渡辺記念会(第64回時点)。時代の変化を踏まえ今後の科学技術映像祭の在り方について検討しています。



第64回科学技術映像祭表彰式(2023年4月)  
受賞者と井出庸生文部科学副大臣、主催者、運営委員、審査委員による記念撮影



第64回科学技術映像祭 内閣総理大臣賞  
「NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からのメッセージ ～地球を彩る驚異の世界～」



# 全国の教育文化施設プロデュース

科学技術館の運営経験をもとに、全国の科学館や博物館などの新設・更新に対するコンサルティングを行っています。コンセプトづくりから構想・計画・設計・施工監理・運営管理といった一連の業務を通じて、総合的にプロデュースします。

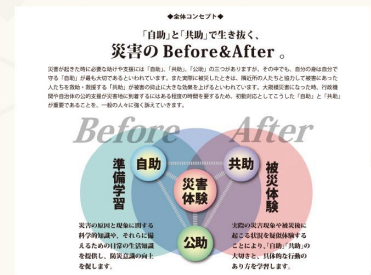
## Production services for educational and cultural facilities nationwide

Based on our experience in operating the Science Museum, we provide a consulting service for the establishment and reform of scientific and other museums nationwide. We offer a comprehensive production service encompassing the creation of museums' concepts, ideas, planning, design, execution management, and operational management.

### ■ 全国の教育施設プロデュース

科学技術館では常設展示の多くを自ら企画・設計し、協力会社を監理して制作しています。開館以来、約60年に渡るこうした展示空間づくりと、運用の実績やノウハウを活かして、全国の博物館づくりを支援する、教育文化施設プロデュース事業を行っています。

基礎調査から、基本構想・基本計画・展示設計・展示施工監理、また運営計画・体験プログラム開発など、最初のコンセプトづくりからオープン後のコンサルティングまでの、各フェーズで支援活動を行っています。



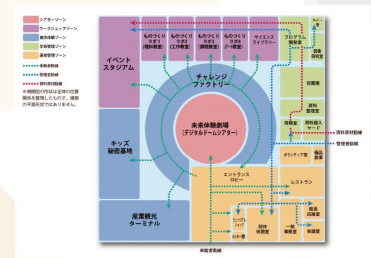
防災体験館のコンセプト・スタディ



幼児向け体験施設の提案パース



空気をテーマにした展示の提案パース



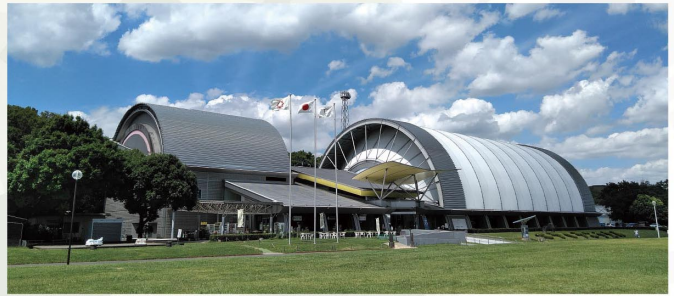


# 所沢航空発祥記念館の運営管理

科学技術館における展示づくりと運営ノウハウを投入し、所沢航空発祥記念館の設計・製作に携わるとともに1993年の開館以来、運営管理を行っています。(埼玉県指定管理業務)

## Operation and management of the Tokorozawa Aviation Museum

JSF was involved in the design and development of the Tokorozawa Aviation Museum, putting to use the extensive knowhow about creating exhibitions and operating museums accumulated in the operation of the Science Museum. Since the establishment in 1993 of the Tokorozawa Aviation Museum, JSF has managed and operated the museum as a project entrusted by Saitama Prefecture.



所沢航空発祥記念館

### ■ 展示・大型映像シアターの運営

実機資料、体験装置、ワークショップなどの常設展示及び大型映像シアターの運営を推進しています。また、ボランティアと連携し運営の充実を図っています。



常設実機展示

### ■ 特別展及びイベントの企画運営

航空に深く興味を持つ方々だけでなく、子どもたちや広く一般の方々に飛行機や航空技術への興味関心を喚起できるテーマを選び、特別展やイベントを企画・開催しています。



YS-11 公開

### ■ 資料の収集・保存・活用

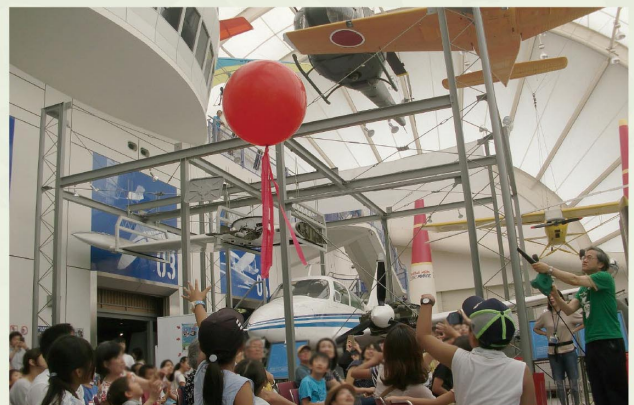
併設された収蔵庫の管理と運用を行っています。また、館設立の趣旨に沿った航空に係わる資料の収集と保存、それらの有効活用を図っています。



収蔵庫

### ■ 教育普及活動

子どもや一般を対象とした航空関連のテーマによる工作教室、公開講座等を企画・開催するとともに、「キッズ・チャレンジ倶楽部」の各種教室を開催しています。



実験講座



# 情報システムの受託開発と運用業務

データベース技術、情報検索技術、各種モデル化技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術等の高度情報処理技術を総合的に活用し、情報システムの設計開発及びインターネットを活用した運用サービス、教育用などの各種デジタルコンテンツの制作を行っています。

## Commissioned development and operation of information systems

By comprehensively leveraging its advanced information processing technologies, such as database and information search technologies, various modeling technologies, computer network system creation technologies, and analysis and simulation technologies, JSF designs and develops information systems, provides operation services which utilize the Internet, and creates various types of educational digital content.



万全のセキュリティ、災害にも強いデータセンターに弊財団サーバを設置し、各種 Web システムを開発から運用までトータルでご提供しています

## ■ 通信教育事業支援システムの開発と運用

通信教育に関わる事業を支援する各種システムの開発及び運用サービスを行っています。社員研修向けの通信教育を提供している通信教育団体の業務支援システム、社員研修担当者の業務管理を支援するシステム等、多岐にわたるシステム開発・運用サービスを行っています。特に、社員研修で通信教育や eラーニングを活用している企業の研修担当者へ、受講状況の情報を提供するための成績管理支援システム SuperGrace は、約 9,000 社以上の企業で利用されています。

## ■ システム開発・運用サービスの実績

上記事業以外にも官公庁や公益法人・民間企業から多くの受注実績を有しています。

- 文部科学省 ■ 環境省 ■ 経済産業省 ■ 内閣府
- 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
- 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
- 一般財団法人電力中央研究所
- 一般財団法人電源地域振興センター
- 一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)
- 株式会社イセー 他、多数

## ■ 文化施設関連システムの開発

科学技術館における展示のノウハウや実績を活かし、文化施設関連の展示システムの企画及び設計・開発、保守に至るまで、幅広く最適なソリューションを提供しています。

また、ミュージアムショップのネットショップの構築から運用までのソリューションを提供しています。このシステムは、科学技術館、国立科学博物館ミュージアムショップ等でも利用されています。



情報システム部は、ISO9001 認証および ISO27001 認証を取得しています。



# 展示・イベントホール等施設の貸出し

科学技術の普及・交流や各種の催事・行事を行う場として、科学技術館の展示・イベントホール、サイエンスホール、会議室の貸出しを行っています。各施設は、併用してご利用いただくこともできます。

Lending of facilities for event usage, etc.

JSF provides usage of the Science Museum's exhibition and event hall, science hall and conference rooms as venues science and technology-related diffusion and interaction, events and functions. All of the Science Museum facilities are available for combined use.

## ■ 展示・イベントホール（1階）

各種の技術展、製品発表会、イベント等に展示・イベントホールをご利用いただいています。スペースは約3,700㎡、目的に合わせて11のブロックに分割可能で、規模に応じてご利用いただけます。



展示・イベントホール（2号館）



展示・イベントホール（4号館）

## ■ 会議室

小規模の会議から、90名程度のシンポジウム・セミナーまで、規模に合わせた大小4つの会議室をご利用いただけます。



会議室

## ■ サイエンスホール

ステージ、音響設備と控室を備えた、410名収容の本格的劇場型ホールで、講演会、セミナー、各種イベント等にご利用いただけます。



サイエンスホール

## その他関連施設

### ■ レストラン

来館者のご利用から、貸出施設でのイベント利用に合わせてパーティーの開催、会議室等へのケータリングサービスも行っています。



レストラン（イメージ）

### ■ ミュージアムショップ

科学への興味と関心をはぐくむ数多くのアイテム、科学実験キットや来館記念グッズを取り揃えています。



ミュージアムショップ



# 財団の概要

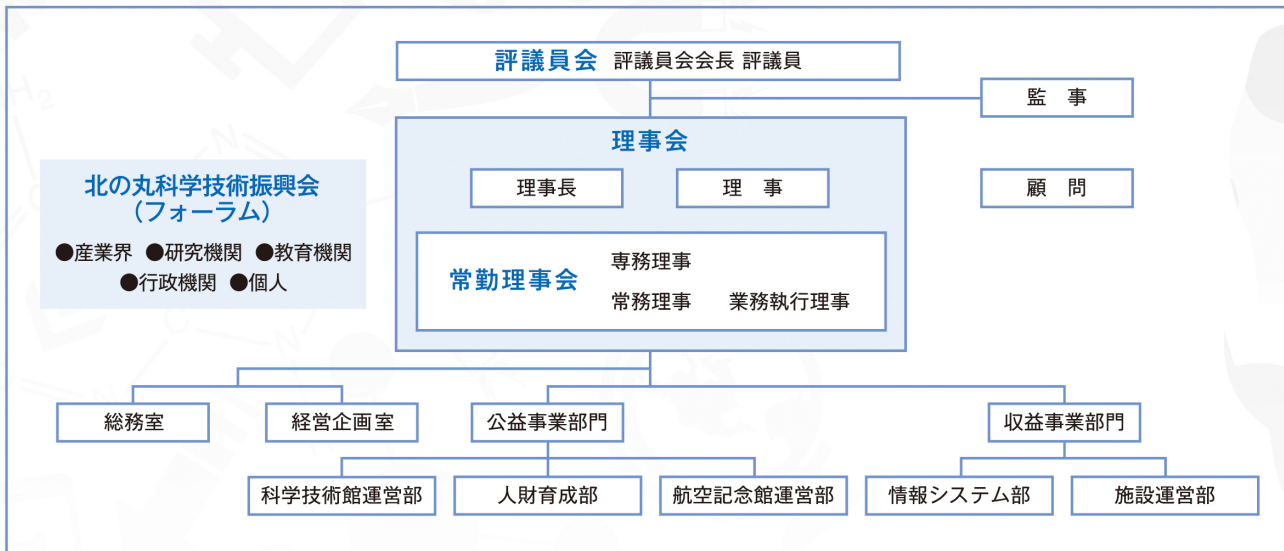
JSF Overview

(2023年7月1日現在)

名称	公益財団法人 日本科学技術振興財団 英語名：Japan Science Foundation
設立日	1960年4月19日 2011年4月1日(公益財団法人に移行)
所在地	〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 2 番1号
基本財産	4億円
代表者	代表理事・理事長 東原敏昭
事業目的	当財団は、科学技術振興に関する諸事業を総合的かつ効果的に推進することにより、わが国科学技術の発展に寄与することを目的としています。
事業規模	15.7億円(2021年度決算)
職員数	60名(2023年4月1日現在)
設立経緯	昭和30年代の技術革新の時代背景の中で、産業・経済の発展の原動力である科学技術振興の重要性に鑑み、当財団は、科学技術振興を担う民間の中核機関として、1960(昭和35)年4月に、時の政界、官界、財界、産業界、学界の総力をあげて設立されました。

## 組織図

Organization Chart



## 北の丸科学技術振興会

Kitanomaru Science and Technology Foundation

わが国が科学技術創造立国として将来にわたり先進国であり続けるには、各関係機関、個人が理工系人材の育成に関して「社会総がかり」で取り組まなければならない時代が来ています。当財団は、子どもたちに対して科学技術の興味・関心を高める様々な活動をとおり、次代を担う理工系人材の育成を目指すことを主眼におき、わが国の科学技術の振興に貢献すべく今後も努力してまいります。当財団は、2011年4月に北の丸科学技術振興会を設立し、企業、団体、個人様に活動資金及びその他のご支援と協力をお願いしております。是非、当財団の趣旨にご賛同いただき、当会にご入会いただければ幸いです。

(会員区分)

賛助会員 この法人の目的、事業に賛同し、賛助会費を納入する個人及び企業・団体  
(年会費：1口1万円、個人会員は1口以上、法人会員は10口以上をお願いします)

特任会員 この法人の諸活動を支援する者として特に理事長が認める個人及び企業・団体

(税制上の優遇措置)

当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けており、税法上の「特定公益増進法人」に該当するとともに、「税額控除証明」を取得しているため、当財団への寄附金・賛助会費については、税制上の優遇措置を受けることができます。個人様の寄附金の場合、所得控除もしくは税額控除のいずれかを選択することができます。法人様の寄附金の場合、一般の寄附金とは別枠の損金参加が認められます。



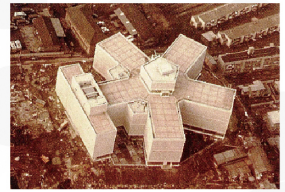
# 財団のあゆみ History of JSF

## 1960's

- 1960 財団法人日本科学技術振興財団設立総会、倉田主税会長就任（株式会社日立製作所社長）  
主務官庁（科学技術庁）より設立許可  
関西地方本部、中部地方本部設置
- 1964 科学技術館開館  
サイエンスクラブ発足（現サイエンス友の会）  
テレビ局（東京12チャンネル）開局  
学校法人科学技術学園工業高等学校開校
- 1966 植村甲午郎会長就任（社団法人経済団体連合会副会長）  
科学技術館が博物館法第2条による博物館として認可
- 1967 関西地方本部が財団法人大阪科学技術センター、中部地方本部が財団法人中部科学技術センターとして独立



開館・開局・開校パーティ



科学技術館竣工

## 1970's

- 1973 テレビ局を分離（東京12チャンネルが株式会社東京12チャンネル・プロダクションとして独立）
- 1974 科学技術館の展示に産業界による業界出展方式開始
- 1975 創立15周年・開館10周年記念式典挙行  
主務官庁が科学技術庁と通商産業省の共管となる
- 1978 稲山嘉寛会長就任（新日本製鐵株式会社社長）



産業界による業界出展方式開始

## 1980's

- 1982 創立20周年・開館15周年記念事業として別館建設（地下階～2階）
- 1985 国際科学技術博覧会（科学万博、つくば'85）「歴史館」「こども広場」の運営管理
- 1988 斎藤英四郎会長就任（社団法人経済団体連合会会長）
- 1989 創立30周年・開館25周年記念式典挙行、記念事業として別館増築（3階～5階）

## 1990's

- 1990 第1回アジアこども科学会議を開催  
「国際花と緑の博覧会（国際陳列館）」の運営管理
- 1992 第1回「青少年のための科学の祭典」を開催
- 1993 埼玉県立所沢航空発祥記念館（基本構想、施工監理、運営計画を実施）の運営管理
- 1995 高校生を研究機関に派遣し研究体験させる「サイエンスキャンプ」を開催
- 1996 科学技術館5階を大改装「FORESTー遊び・創造・発見の森」



FORESTー遊び・創造・発見の森

## 2000's

- 2000 有馬朗人会長就任（東京大学名誉教授）
- 2003 青森県立三沢航空科学館（展示設計、施工を実施）の運営管理
- 2004 「第1回 World Robot Olympiad 日本大会」を開催  
世界物理年（WYP2005）日本委員会運営事務局
- 2005 第16回国際生物学オリンピック（北京）への初の日本代表派遣（共催）  
日本国際博覧会（愛知万博）「科学と遊ぶ体験ひろば」を実施  
第1回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2005」の共催
- 2006 第37回国際物理オリンピック（シンガポール）への初の日本代表派遣（共催）
- 2007 日本科学オリンピック推進委員会運営事務局
- 2009 国立ハンセン病資料館の運営管理  
第20回国際生物学オリンピック（日本／つくば大会）運営事務局



第20回国際生物学オリンピック

## 2010's

- 2010 第42回国際化学オリンピック（日本／東京大会）運営事務局
- 2011 内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定  
公益財団法人日本科学技術振興財団へ移行登記、勝俣恒久理事長就任（東京電力株式会社社長）  
有馬朗人理事長就任（武蔵学園学園長）
- 2012 榊原定征理事長就任（東レ株式会社社長）
- 2015 野依良治館長就任  
開館50周年財団設立55周年記念特別展「くらしの技術⇄50年『大・展望展』」開催  
科学技術館累計入館者3,000万人達成
- 2016 「くすりの部屋ークスリウム」展示室公開
- 2017 「ニュー・エレクトロホール（サイバー・リンク）」展示室公開



野依良治館長就任



東原敏昭理事長就任

## 2020's

- 2023 「サウンド」展示室公開  
東原敏昭理事長就任（株式会社日立製作所 取締役会長 代表執行役）





### 交通アクセス

- 東京メトロ東西線 / 「九段下」駅または「竹橋」駅下車
- 東京メトロ半蔵門線 / 「九段下」駅下車
- 都営地下鉄新宿線 / 「九段下」駅下車

## 公益財団法人 日本科学技術振興財団 科学技術館

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 2-1

TEL 03-3212-8484 (代表)

URL <http://www2.jsf.or.jp/> (日本科学技術振興財団)

URL <http://www.jsf.or.jp/> (科学技術館)



当財団は個人情報の適正な取り扱いに関する一定の基準を満たした事業者が付与されるプライバシーマークの付与認定を受けています。